

# 寺崎組新聞

第九十一号

発行所 寺崎組新聞社

## 嗚呼！噂の毛無峠へ！

### バタツ！ツルツ！ドテツ！ 走ったコケた、ガス欠だ！



録音

初参加の吉田です。昭和42年生まれ、野宿用品とバイク(SX200R)は昭和62年製造。ついでに当日持参した今では珍しい？飯盒は30年前製造。ウエアも当時のウエアが今でもありますが、試しに着てみると、着れることは着れるがバツンバツンで身動きがとれなくなると、着るの購入。ヘルメットとゴーグルはとっくの昔の捨てられてしまっていて、こちらも新品。せめてバツンバツンくらいはいい、玄關の縁の下から約20年ぶりに日の目を見るはずだったのに、皮は大丈夫だが、ゴム(柔らかいプラスチック)の部分に割れがさわるほど割れてくる。・時の流れをしみじみと感じました。と同時に財布がものすごく軽くなりました。

こんな私も大学生の時には、限定解除なんかしちゃって、当時は逆輸入車だったリッターバイクなんかで日本一周をしたものの、何か物足りなかつた。でもそれが何かはわからなかつた。そんなときに組長の「林道日本一周」(全4巻)の本を読み(今でも持っています。しかも2組

も。その他組長の著書多数も。・「これだ！」と思ひ、その翌年の夏には、同級生は就職活動しているのに、本来は大学の夏休みは9月中旬で終わるところを個人的に11月上旬までを強制的に夏休みにして、林道日本一周をやりました。そして翌年、ちよつと勤めた会社を辞めた時に新潟の朝日スノーボードの方面へ野宿ツーリングにいったのがたぶん最後だと記憶しています。という事は、約20年ぶりの野宿ツーリングなのです。しかも20年前からその存在を知ってはいいたが、なかなか参加できなかつた寺崎組の。・

当日は珍しく5時に起床。身につけるものは新しいが、バイクと野宿用品は古い私は、缶コーヒートバナナを食べて6時にいざ出発！自宅から約1kmのコンビニでたばこを買おうと思つてウインカーを出すと点滅しない。「たぶんリアシフトの下の配線だ。どこかで直そうかと思つたが、結局家に戻つて修理して再出発したのが確か6時半頃。そのまま高速に乗り「いざ信州へ！」と息巻いている心の片隅に「一つの不安が。・。・。そういえばバイクをバラしてから初めての高速だ。約300kmも走るかな？」そんな心配をよそに昭和のバイクはめでたく11時30分に集合場所へ着きました。

ヘルメットを脱ぐと既に到着していたゴ三浦さんが声を掛けてくださり、北海道からの北脇さんを紹介してもらいました。そこで待っているのと続々と集まる組員達。しかし、組長が13時をすぎているのにもかかわらず姿が見えない。それから20分30分ぐらいいから組長到着！組長は到着するなりコンビニ弁当家で

「寺さん何時に家を出たの？」と聞くとなんと「午前1時。軽トラにバイクを乗せて途中で来てそこからバイクで来た。」と。一同「え！1時！1時！」と驚いていました。また、組長が弁当を食べている途中に「あなた一体どこまで行くの？その荷物？」と心の中を思つてしまった野村さんが大阪から到着。しかも到着するとすぐ地元の名産品コーナリのようなところへ行き、白菜その他の野菜などを買って来た。一同「それ持っていくのか？」と尋ねると「軽量化してきたから大丈夫！」(どうやら彼女の今回のテーマは「軽量化」のようでした。編集者注：「今回の」ではなく、「永遠の」です。)といつてバックにしまつていました。翌日の昼食時にもみんなに「使つてほしい！」と言つてました。

そこそこのうちに組長の昼食タイムも終わりが近づいてきた。買った出だしを出しに、驚くことにみなさん食料・酒をしこたま購入！三浦2号さん曰く、「買ひ物は1日で一番幸せな時間」だそうです。そして本当に山へ向けて出発！と思つたら、ゴ三浦さんが駐車場をなぜか立ち止まり、気を取り直して、木島方面へ向かい丸山林道に突入したのも束の間、私は転けて空を飛び、背中から着地。ザックがクッションになりケガはなし。バイクも無事。ザックの中に入れていたそば焼酎雲海紙バックが濡れていないことを祈りつつ、また林道をひた走る。実はこの辺で既に私のバイクは中低速ブスブス状態で走りだしてしまつてた。(後日、調整するとスロー側が大分濃い目になっていました。と同時に、転けたときにキャブの中身が攪拌されて、どこか詰まっちゃった様です。)そんなことを思いながら走つていると組長が林道脇の空き地に野宿地を決定。時間もちょうど16時。全員がテントを張り、宴会会場に集まると乾杯！そこからは各自の料理が時計回り反時計回りで回り始め、全員がだんだんと酔つてくる。途中なぜか電車

の話を聞いたり、最後は「毛無峠！」で終わる会話を2回ぐらいい

たときにゴ三浦さん、組長の順でお休みタイムに入っていく。アベさんは半ズボンで夜空の下で寝てましたね。それから地下鉄さんはふつうのフライパンを持ってきているので「どうやって持ってきたの？どう？」と思つてみると、いわゆる「武器ポーチ」からドライバーを取り出し、柄の部分で分解していたのには驚いた！でも参考になった。その後、宴もお開きとなり、私もテントに入り寝る体制を整えたらあつという間に夢の中。



野宿地

翌朝は4時半に用を足したくなり起きあがり、テントにまた戻るとみなさん結構起きています。5時半頃には全員が集まり、6時には朝食終了！さて、片づけようと思つていると、組長は昨日から気になつているCDのアーサーを取りをしまし。そして8時に出発！丸山林道を下り、山田牧場を抜け七味ヶ岳林道峠で休憩。しかもなぜか「大休憩！」。なんと組長はキャブを分解し始めた。個人的には二日酔いで猛烈に頭が痛かつたので、ありがたかつた。その間に地下鉄さんとアベさんは片道0.8kmの登山へ行きました。そして組長のキャブも組上り再出発。その次にガレた林道の登りを必死に走つていると、バックミラーには後ろの組員の姿が映らなかりゆつくり走つていたのにそれでも後続の組員の姿は見えない。そんなことを気にしつつ林道の終点まで行った。そこで休憩をしているとあまりも後続が遅いので、組員のみなさんが、「野村が転んだか、先生がガス欠したのかのどちらかだ？」と言つているうちに遠くの方でバイクの音が。さすが国防に携わつてようやく到着。聞けば野村さんは転けて、先生はガス欠で予備燃料を入れたとのこと。

追伸  
私は林道を走つているときにバックミラーに映る原付の先生の姿に怯えてました。長靴はいてコーナリで積んで、なんでそんなに早く走れるのですか？それとも私が遅いのか？

その方を見て連呼していた「毛無峠！」へ。到着快晴で景色もよくとてもいい気分。でも、「毛無の意味は知っていたし何となく風景はおぼえていたが、20年前に来たはずなのに記憶がよみがえつてこなかつた。・。・。その後湯沢林道へ入り天然水付きの林道脇で昼食タイム。ラーメンを煮る人、そばを煮る人、いつの間にか他の観光客からフランスパンとハムをもらつて食べている人、シユワワな清涼飲料水を飲む人、林道脇の天然水を飲む人など、様々。昼食も終わり、湯沢林道を走りきり、GSへ。私もここでガソリンを入れて帰れば家まで無給油で帰れるので、一結に入れる。その後、GSの目の前にあつたスノーシューアップル○○○で本日の買い出しをすると言ふことなのでそこで皆さんにお別れの挨拶をして、高速へと帰つていきました。

帰りの高速では、登りでまたエンジンブスブスで坂を上らないので何度か「キャブのオーバーホール？」とも思ひましたが、だましました。家まで無事帰りました。

最後に組長をはじめするみなさまのお陰で、約20年ぶりの野宿ツーリングを楽しく過ごすことができました。ありがとうございます。年内は無理なので、また来年の組会に参加させていただきます。



## 長野組会一人一言

●20年ぶりに野宿すると、皆さんの持つ野宿用品の進歩に驚きました。帰ってからキャンプ用品売り場に行くと、テントはコンバクトだし、シユラフなんて「えー！マジ！なんですか？」って言うくらいコンパクトでした。今回の装備を一新して次回また参加します。(バイクはそのまま)(ヨシダ)

●景色が美しかったです。イナゴ回してすみませんでした。(先生)

●よし！今度は絶対小柳ゆきの「あなたのキスを数えましよう」歌うぞ！って決めてるのに、酔っぱらうとなんだったか思い出せない。・。・。で、またいつものゴダイゴ。そのあとはツイスト入りの陽水。そしてモハ、クモハ。なんちゃらみゆきで、確氷峠。しめは西八王子と。(フガ金井)

●三浦氏に、「駅名を完璧に言えるのは京王と西武だけだろ？」と見抜かれてしまいました。精進します。(アベ)

●あの曲を口ずさみながら、あのXT400に乗って久々の組会でした。早く名車(迷車?)を乗りこなせる様に精進します。(ひらりん)

●こけたのが2回、こけそうになつたのがいっぱいでした。バイク起こしてもらつたり、難しいところでバイク運んでもらつたり、いつも以上にみなさんにお世話になりました。ありがとうございます。(のむら)

●こけたのが1回、立ちこけが2回。立ちこけは全部右側に。・。・。いつもながらみなさんのお世話になりました。今後方向転換する時は必ず左回りにします。トホホ。・。・。(ゴ三浦)

●道の駅探して集合時間に遅れてしまひ、もしも出発せずに集合地点に組長がいたら、とも思ひ言ひ訳などを考えながら到着しました。・。・。が、なぜか組長は昼飯を食べていた。(会津の怪人)

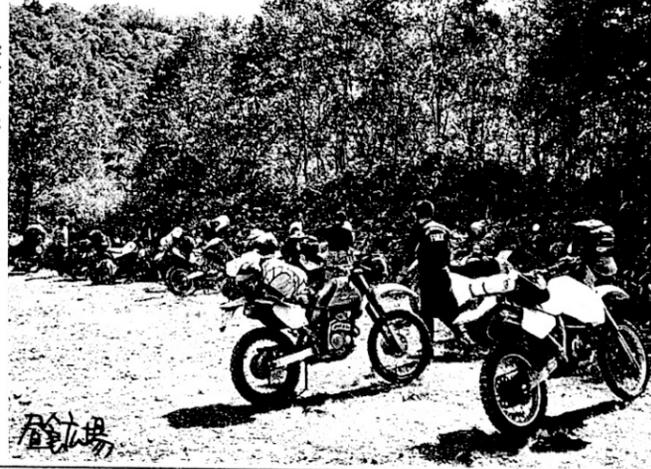
●今回は組長バイクの不良のおかげで、お気楽ハイキングを楽しめました。(地下鉄)

編集後記  
大工 最近来たものに編集後記をつけ出さる人にもう一言。こころをこころに。地下鉄 最近来たものに編集後記をつけ出さる人にもう一言。こころをこころに。モリタ 最近来たものに編集後記をつけ出さる人にもう一言。こころをこころに。まて。次号ORRお楽しみしなさい。組長 最近来たものに編集後記をつけ出さる人にもう一言。こころをこころに。トのかけまちはいいのよ。ついでに、さで友回はどなたもこころをこころに。

# 連泊組レポート

組会報告 2日目

久々の塾参加である。また、久々に組会報告の執筆である。また、久々に北海道に引越してからの、GWと年末の宴会には辛うじて参加できるが、塾となると少々難しい。いつも新聞の組会報告など読みながら、うらやましく思っていたのは、言うまでもない。今回は塾の日程と、休暇が奇跡的に上手く合ったので、これを逃す手はない。速攻で準備をしてフェリーに飛び乗った。



キャンプ場

## けなしん



そうと決まれば皆の行動は素早い。そそくさとテントを張り、車座にも取り敢えず乾杯だ。ビールが旨い!! 今日はずいぶん遅い始まりで、もう18時を過ぎていた。夕暮れの中、宴会が始まった。いつもの様に料理が回り、お約束の駅名連呼が始まり、ゴダイゴのミックキー吉野が登場したり、先生はエンジン全開でアグネスチャンを熱唱。こうして2日目の夜も、いつもの様にいつもの如く更けて行くのだった。

翌朝は薄曇り。今日は帰宅する者、更に一泊する者、それぞれである。出発の準備をしながら、今日の予定を考える。今日は深夜に新潟からフェリーに乗らなくてはならない。他の人達は取り敢えず佐久の方へ行くという。

長野組会最後のオマケ

それは確かに前兆はあったのだ。7月の塾の約一ヶ月後、通勤の為にバイクに乗り、家から5、6キロ走ったところでパンクした。タイヤを見るとサイドに裂け目が入っている。これは

須坂の町を離れ、集落の中をグネグネと走り林道へと進む。ひと山越えた辺りで難所が2カ所ばかり出てくる。皆で協力して通過、そろそろ野宿地をと思うが、仲々良い場所に出会えない。支道や川岸への道などを偵察に行くが、今一つである。そのうちにととうとう集落に出てしまった。また戻るのも先程の難所があるので面倒だ。そのまま次の林道へと入っていく。何力所か野宿地の目星を付けてながら進む。チョット荒れ気味で溝が走り、ガレている。ふと後ろを見ると、さっきまで付いていた金井さんの姿がミラーから消えた。しばらく止まって待つが来ない。こたんと現れた。何でもチェンが外れたとの事。何しろ20数年を経過したバイクだ。旧車と言っても過言ではない。サスのストロークも無い。でも粘りのある

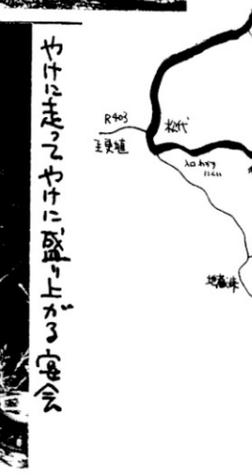
速いのだ。さて再び走り始め、峠らしき場所の手前に右へ分岐がある。草だらけの道だが、寺さんが先行して偵察する。どうやらOKのようであった。送電線の鉄塔下だが、チョットした広場であり、明るくて良い場所だ。今夜の宿はここで決定。

そうと決まれば皆の行動は素早い。そそくさとテントを張り、車座にも取り敢えず乾杯だ。ビールが旨い!! 今日はずいぶん遅い始まりで、もう18時を過ぎていた。夕暮れの中、宴会が始まった。いつもの様に料理が回り、お約束の駅名連呼が始まり、ゴダイゴのミックキー吉野が登場したり、先生はエンジン全開でアグネスチャンを熱唱。こうして2日目の夜も、いつもの様にいつもの如く更けて行くのだった。

須坂の町を離れ、集落の中をグネグネと走り林道へと進む。ひと山越えた辺りで難所が2カ所ばかり出てくる。皆で協力して通過、そろそろ野宿地をと思うが、仲々良い場所に出会えない。支道や川岸への道などを偵察に行くが、今一つである。そのうちにととうとう集落に出てしまった。また戻るのも先程の難所があるので面倒だ。そのまま次の林道へと入っていく。何力所か野宿地の目星を付けてながら進む。チョット荒れ気味で溝が走り、ガレている。ふと後ろを見ると、さっきまで付いていた金井さんの姿がミラーから消えた。しばらく止まって待つが来ない。こたんと現れた。何でもチェンが外れたとの事。何しろ20数年を経過したバイクだ。旧車と言っても過言ではない。サスのストロークも無い。でも粘りのある



おもしろい集落にin高山村



がない。昨日の今日なので少し量を控えめに買う。買い出し、給油を済ませ、取り敢えず菅平方面へ進む。

## 今回事



出発して少し林道を走ると、直ぐに菅平の集落に出る。R144に合流する菅平口で皆が右へ、私は東へ進むので左へ、軽く手を挙げてお別れである。

天気が良ければ何処かで物干しをと思ったが、雲がたれ込めてあまりバツとしない天気が続くので、そのまま沼田、金精峠を越え、山王峠を抜けて、栗山村、馬坂林道を抜けて湯西川へ。そのまま南会津を抜けてR49へ出て、一路新潟を目指す。20時頃にフェリーターミナルに到着。次はいつ参加できるかな、などと思いつつ船上の人となり、今回の旅は終わった。

参加者の皆さん御苦勞様でした。ひさしぶりに組員の人達と楽しい一時を過ごせました。

記 管理人@北脇

イタズラに違いないと思ったが、チューブを見てみるとバルブの付け根の所からバルブが取れていた。新しいT63は購入してあったが、まだ山が4分山も残っていたし、モツタイナイのでチューブの劣化と判断しチューブ交換のみをした。その後9月の塾まで普通に町乗りをしても特に問題は無かった。たとえ塾の林道で再度問題が発生しても、組員の誰かがチューブを持っていてくれるだろうと他力本願で甘く見ていた。

9月の塾の最終日3日目、フガさんと高速の入り口で別れ、のむらさんと高速の分岐で分かれた。最後に一緒に走っていたアベさんが最初のSAに入ったので、そこから一人になった。そのすぐ後、佐久の出口の通りすぎた所で急に振動を感じた。最初は速度超過防止用のスピード・パンプと思ったが、振動は止まらない。非常駐車帯にバイクを止めてタイヤを見ればパンクである。なにも一人になった直後で、とボヤキながら、タイヤを開けてチューブを見ると、見事に2つに裂けている。裂けている以上、替えチューブがなければどうにもならない。非常駐車帯での修理はもう不可能なので、1キロ先の佐久PAまで走る。ここにはETC出口があったので、出口の係員に状況を説明し、料金は払うので外に出してくれないかと頼んでみるもあっさり断られる。次の軽井沢出口まで走ることを考えたが、結局タクシーを呼んでもらいたく、タクシーの運転手が、知っているバイク屋に連れて行ってくれ、チューブと廃棄される予定のタイヤを買ってきた。

佐久のPAにタクシーで戻り、タイヤを外して内部を調べてみても、何も突起や裂けらしきものは見つからない。チューブだけ交換してもいいのだが、今回2回目である、2度あることは3度あると考え、貰ってきた捨てタイヤに交換した。最初の時に新品のT63に変えておけばよかった。4分山をケチった結果、結局タクシー代4600円、チューブ代3000円、修理時間2時間を使ってしまった。ああ、しかも丁度一人になった瞬間にパンクしなくても、パンクしなくても止まったのに裂けているとは、ビートストッパーの締めが甘かったのだろうか。(だったら、林道でパンクしているよな?) PAでのタイヤ交換は、見世物になっていた。あー疲れた。

記 最近タイヤの裂け目が気になる三浦2号

今月の新人紹介

第二回新人紹介

吉田正一

土浦の星☆

(山梨県)